拾葉集

十二

扶桑拾葉集卷第十三

目録

中務内侍乃見記　中務
石清水御願書　後伏見天皇
賀茂社御願文　同
御子之贈答之古今集跋　同
名和長年之下知状　後醍醐天皇
書花集凡ら　京良親王
又　同

宮内庁書陵部

同
同
同
同
同
同
同
千首和歌波
位右まうて
源義経

拾葉拾葉集巻第十三

参議従三位兼行右近衛權中將源朝臣光圓編集

中暫内侍の日記

中暫

いにしへのふるき春をしのびてもあはれなるかな花ゝてすゑの秋のもみぢをくれさきにつゆのはるのさくらもとくゝのえんにはゝるくさくさにたまよしいぬゝさんにんきんの八くなりてあさまし紀ゆゑ
弓世はゝろゝのこんにしみくわをれゝ紀中ふ
もゝあんこ年申ゝみとの四せんはとそ院の内ら

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てはくるしあらしも春の山ほとゝぎす
わらしの部云ふ俗に花の下ふ
花角ち花の下わ是なるしふとよろしふ
わ是なかの花しくまうわなるのやこのうて
かりひなるこいるまこわさうゝ孫いるうし
なるひかまもいきをうわう
かゝきすはかりかくるの部とうあり
なるわのうゝもむつまきれ
世ぬふいなりとなくわとまゝ思るしくもかるを
彼も思彼ものこうしわうもたうゝそうゆく
はかゆまをとふうゝん六年卯月九日の

さのとのうゝ院のうゝかわて還御かるかるかう春
長乃部ゝこかうみうゝれお將ゝうかけもあく
院の陽ゝうゝ西に出のひてかゝんゝうる南方の
ゝるゝるゝ乃ゝわるゝるゝれいかをるかしむ
部ゝかるとゝゝせおかりてまゝんはゝゝの部
もわゝひゝゝゝゝのゝゝ左中将ふゝとふわう
ゝんゝかわて之ゝくまゝゝゝまわけるゝ有明の月
にるゝかるゝ一部を孫ゝ先ゝすやゝゝゝん年ゝゝ
しけなゝもおわゝかゝゝゝゝ春の中はもかゝん
をゝ思るやゝゝゝに
思るやふ孫ゝうやいゝはけゝゝふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月十三日 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

八年三月十七日爲[illegible]

[illegible]

[illegible]

わすれぬるよるのいとをひをかし
こうのうちの月の秋ぬ月
世をのがれてあはれなる山ぢ
きりぎりすのなくなる
まつよ
月ぞすむ
なぐさめてけるかな
わびぬれば
ふるさとにうつりぬれば
ふるさとにうつりぬれば
ふるさとにうつり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みやこにかへりてのち三位

いまはそいおもひさしくなれぬるに

なにはなりけるちかひとや

花なりてちりぬるあとのおもかげ

さくらはなりけるものとはしらねども

又大納言さねかたの三位

わすれんとおもふ心はなにぞ

[illegible]

みやこにのぼりてふるさとみるにん

むかしさめぬるかとおもひてみし月の

わすれがたきをやどりけるやどり

れもひいてもまつ秋ぞかなしきやど

[illegible]

又三月廿日ごろ日ぐれのかすみわけがたきに

ひやうぶきょうの

いにしへのわすれがたきをとんぬるに

日ぐれのかすみのまよりかすかに

うぐいすのこえ三位

うぐいすはなりぬるけさやいそぎとく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こきいてぬふすまにあることつを問ゆ
とくてあるれていのくるるぬとやふ重ゆ
あんんてむくんのこるれるくしるるい
なとしくこるれて火をるてるま
いるあまるといんくけるせるぬをふ
文乃伊るる十二百いるてるれるやわるもん
伊舟にるめるもむるやるえ虎乃元るこるて
月るるるるるのるるて花山虎大納言重殿さ
るるひるるるるくおるるきるわるるるるわる
えんるるの川るるるくて大納言殿様大納言
殿るるるひるるるやるくるれえんるるのるを

えるるらんふ宵寄相るのこんるるるれお
みるるるわるるるるるるしてるけれまにを
にるれれれの山るるるるるるるるるるる
るる月の池よるるるるひるるおりるるるとわる
るれふえるるるるるるるるの月るいるる世ふ
るるるれしやるるいるひるるるれる世ふ
らいるるのにるるるるるるるるるるるの
くいるれるるるるるるるるて石るるあける
るるるるるるるるるるのるるるるおりるいるる
るるるやるるいふ乃るるに
山るふるるるる月るるるるるるるん

[illegible]おとうりする
あをめんをいつきたまひぬ
十六日ときこの清水をたかあきらわさう
ぢなのほとりもれあひて月ひかりひさしく清
えんよりひかりさしくの新よりあはつの
義人めいてまいりたまひ義山法古納を給
東殿をいとはかりあ殿上人ときこえかよ
月のまとてきこえのまひいてき
祝ぢはとふおりしてあるをおはしく
きこえあるのおとふおやのあやといひぬ
あをきんのはとりの月のうちにたのめ

ぬよりうちてまきしてえてはを
らきて

いはをおりひるうえまちあつ
ぢあの月うけるまて
といひおこをもてとあをひるやこ
りうるもさきうれて去のひてをを
とつりぢうさきはひもれと
いとしぢんをしまうひるうん
をと思をくいのあをなるををを
をもをうをたのこの月ちくうる
はをうゆきをはのやとつるのひをひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
十八日野上の御[illegible]
殿上へ[illegible]
[illegible]
しおりの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しきの松上をはらひ行くうきの風
名ごりをしたふ秋ちひろの月を
ゆふくれてもぬまつるてふ
の木末夢けさ山田のいなまをけるく
いるとの風をうれしう徑山乃ちらく
をまつゆく秋の新そをいつあそる
なきはをものうしてふくるなる
つるはへ冬ものれん

ふるさのをふきゆくなるあきと
ふかくくしなるあけるあ
志のゝめのなをゆくるの秋風

なしくいるそこうそ
かやふはくあしのをんの中ふおはき
まるのうそるをるをるをはのう
沖あをれて行をそてぬれて月を結てやう
てそのまなるうはくいわう秋ふ
まるまそくんそうるあるはをなるの
うひなをある

廿一日ふ星落ち地の所ふいるを徑ふなるあ
れをはるうをなるあまるはは沖あをめ
月をそぬれをのうをいるせおりまをはをはをい
をうをのうをれて冬をなるうをなる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わすれぬるかなの心をもて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大納言殿もまいりて

月もすむ　力もそふ　みくま

のゝ　みそぎ　[illegible]

御返しとふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ん[illegible]の[illegible]と思て湯や新宰相殿[illegible]
きゝ[illegible]て[illegible]
のこゝもいふとなくく思や[illegible]て[illegible]
[illegible]のむ[illegible]
なゝゆ[illegible]
かへ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]月[illegible]日[illegible]のひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

しゐ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとやはりあわれまさるかしおもひすまし
ゐたるもいとをかしかりしかの
ちいわもけふのとうとくわりまさるかこころひい
十三ばかりしらくいいわけしもしかるかわれ
ありしかりしこの世をかしこわれるかしさも
やうしくをわれるくはあれい春宮院の御五へ
いとをおりまして侍あるて月いとんをうえ
いとものもしをさうてみくしわるをあり
公乃中に
うたはるる月をみるくさうしかしかの
うちもんの乃わるくなるかか

侍あるをうえ乃ゐ
みはい月乃わるをる
房のえをみくわるて
をうの人出くみはにわるしかしかく
やまわ乃りまに
いとあるをうの
はいあわれをときうるさる
十月十日ろうりをあはいわ伊東の松を
かくとわるる川方あるて松をみすす
ちをうのりわるをりかをいとおとしる
川をあにみうをんを松小車出ん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くみて祝と云さかふしれかうけ祝
をとかきしらしめの井の水
あくるひ三人のうりかさしてさてさて
かまうけきれいやうく御所五位下いわ無内ちゑ
五日節會して出祝いとみんしいせおりしかす
しかの幸のうちきのやうちんさしてゆ
ゑんい左近中將もとのうちに右を中將のぬし
とうれよりうちの右大ねる言のまけいゑんしかさ
かうしうかうをて左右近衛ゆうを中門のふ
ちまかてまちにうちゑかうゑんしいもなまり
入御ゑれい左右大ねるのうちんかまれりかりやの

門まちらしてかうのうちのうちのうち

十一月九日　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九日　[illegible]

十四日　[illegible]

十七日　[illegible]

十二月四日　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くて日とくるもんこいけてぬまに門たてられ
ひろこしろをもてこしてこしてこし

十二月十五日ばかりにきのはひとりもの
けいの御方の御ゆめ殿右大弁宰相りんぢ
ちんぜいしきぶのおもとやうに
しるもおぼえず　ひのやうにおぼえ
ぬものなり
十四日内侍所御神楽　宮ばら中ふおひたち
しくゆかしうにてとくんよまんせいの侍従よ
りはなりかしやうし二条中ねりとまうしあひ
やうしいやのうちにおぼえのあるひらうを
あの中ねりの御ゆかりあるくれ新しかわやま
ちの月いあをゆくまうけたるうち
日数ふるにつけてあるうつくしうこ
ふらしないけのなかしまれのまつえまで
こすえうやうやうもうふるえのうちふるえ
のうちきんにゆうりのふこいうちふ
しれてはうしたるみ神ひうるかきき
かうちうこ宮みひあるてうさの人
きゆくうるけ御ふうそれうう中門
のうへあうわて
ゆ殿いかものへたうう人の御かうあ
なりまうこ宮ちうて月うあうふてなて
しうんしのやく花山院宰相中将やく内

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]を[illegible]のそうゆく
[illegible]安十一年二月[illegible]日 去日[illegible]ふ[illegible]り
[illegible]けい一条大納言[illegible]舟あい[illegible]孫[illegible]わ[illegible]
こし[illegible]て[illegible]
[illegible]あいさつ[illegible]
[illegible]

十日[illegible]かみのまつりとさやうあい大井の
[illegible]乃大納言舟あいさ[illegible]
十二日大原のまつりあ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

川みなもなつかしう物語して二三あまとうち乃きて
行やうとてうちにいるて立くやう
よんかうとうるうるとはるを引てさいにあを
うるあ乃うえいをいかみいりかりてて
かいりう河とすうるあ乃はをてなて
さいりをいふなをとん
こうしかをしの人行うるゆうしいんをいう
をにはの乃うりかふうをいりかぶうるやう
うるみあをてをいりあくうるい御あうりう
をんうてえんうるを志をてうやうりんを
皇后宮東屋志うるれしうをうるあ殿上人

六みをて御うをてあを御堂乃はを
屋うあ御ふ称ふめをうれわをてをうしは
の松の志のうりうるをひうるれをてど
御をうられうるうるれをかうをみを
ていうをうるれうるうるけしあうれなう
ぐるけ乃をのうれをのあうれうや
いをのうしはれまい乃志いうを
年十三日うれいはるをよ乃八うをて御章
をれていうをを清をうるをうう極
野上人行うをうるをうをれふをあてあは
乃やうをうをんをれをを屋上人を位志を

たりつるといふきこえてこれをみるにてらして
してお[illegible]人のえもんのすけ丹乃もとに
[illegible]
[illegible]
中[illegible]
[illegible]
[illegible]
て松山乃中なれとも[illegible]乃秋よりかけて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

て[illegible]
いんなけくなりひあひとはせんとわたれる
[illegible]

思ひいるもむしの秋もわすれはて
こゝ乃夕くれとなれりまさりしも

[illegible]
[illegible]
二月廿七日[illegible]の彩華[illegible]
[illegible]
三月八日いちもくれいわう月ちくあるる
[illegible]

かりくとすふ明かの毛ん人といひて大
納言殿納言殿と乃部の新内殿に人はせ参ふ
いて池乃花と月待とさうわたりとなりて
こうらるもありこうふ風やぬるめ花やさう
つとうみてむさうくるわめといつい
さてのこい風とうとうたてやあさとくふ
けうらくみゆふ花うれ
八日ハ雨むすけん
九日ひとんのうつくしはうひまうるむしさ
うわうふ風とうこいてうつゆうもの上に
まひんとうあうれうんやうあうさうふ

神の宮の神うれしおもひやうまて
まうあうるうあ番乃うめふさうりふ
うるうとうというこうんん
三月廿一日 礼服ハらん日の堂に出ハ
うもあはむさたあ神うもやのはすれうる
うしはもとはうて
白大臣乃ありうんさうれのうのいうする
んさうあうふ内宮はうあうさ六内うう
うこいふ関白殿門大臣殿こう乃九大乃界
井のはうて乃大納言皇后宮殿うわは
らんうういうもはふ内のまうくはうう

殿下御母の所と乃天納言宣旨をかうむり殿へ入給
給ふ御ありさまこのうへもなくめでたしとぞ人々
申あへりされど三月ばかりにおさめ
奉れば御ぐしをおろし給ふ日ごろ御ぐしの
のびたりけるをかきつくろはせ給ふ
しるしにやとのみぞ人々申あへる
三月十日ごろ御幸のきこえ有て関白殿左右
の御供の人々ものしたまへり関白この
頃御ものおもはせたまふなるにつけ
ても世はかなしとぞ人々申あへる

さて世は南殿へうつりぬれば御ぐしをおろし
給ふ御ありさまいとさびしくなりぬ
まゐりたれば女房のさぶらひなどもせず
ものさびてそこはかとなくあはれなる
に白河殿とさきにやうに御幸ちかくなりぬ
とて公卿殿上人ぞろぞろとまゐり
給ふ殿下かの御所へ御いそぎ給ふ
とかねてきこえしかどそれにはよらで後にぞ
はるばるとうち出給ふよ
世はいかばかりのみひとりとぞ
おぼしめしたるよりやのほどなくかくれ給ひ

大きやうにてはこせをかんして大きやうにたた
てまつりて門ぜんあり大きやうの内をふいてはらふよ
ちは大きやうしのえんうしにて紙のはさにてはらふ角二枚
のうへはたてはこの義をくこのうへにてはこの内を
まいりてはこいせんいふ女房やくしゃうの袴ばかりこと
よりあり大きやうはしのはしにてはこの内をはらふ
はしをとりて角はたてはこの内をはらふ
さきはこれをはしらつまりてはらふ
しきはこはたてはこはたいはこのうをさせおりて
玉のはこはうをとめはらふ
くせおりまたまのはこはあをとはあを

のはこはたたはこはいはこ月とはこはいはこ紙
にいはこと七星とあはこいはこはこはこ袴ふは
きはこはこはこはこはこはこはこはこはこ
のはこはこはこはこはこはこはこはこはこ
はこはこはこはこはこはこはこはこはこ
はこはこはこはこはこはこはこはこはこ
はこはこはこはこはこはこはこはこはこ
はこはこはこはこはこはこはこはこはこ
はこはこはこはこはこはこはこはこはこ
はこはこはこはこはこはこはこはこはこ
はこはこはこはこはこはこはこはこはこ
はこはこはこはこはこはこはこはこはこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いきの命婦

たゝ本　さいの君　ゐやうきん　あやうきこと

これふうゝゝきゝゝゝ　やなぎのゝゝゝ　ゐたちと

こせゝの命婦

右衛門督殿

新右衛門督殿

新宰相殿

宮内卿殿

治部卿殿

式部卿宮殿

いの君の衣ひゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くらんをよたれこゝろのまゝにすることをしてまつこゝろあるべし

くるあるうい　出羽一の

左衛門督殿　新左衛門督殿　くるま

はなのさ

二の車み　ひせん　さきもれ

文門　秀さ

三乃くるま　みあれ　いたあるさ

新左衛門　ちよ

四のくるま　ちよ

かゝ　かゝ　くるま　いりあれ

十六日　あけ　きのもりのみせいるやうあるべし

うれあるゝみあいてきれ　大納言殿いあれ花の

ゆてけ　はうさをこゝ　もこのみの花をを

あるくむしやゝ　ゝるゝんとゆゝ　ゝるゝ

けもゆゝ　ゝゝ思ゝ　ゝをゝ

ひゝゝの　ゝゝ

ゝ草乃けゝ　思ゝ　ゝん　ゝなけ乃

けれ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ

ゝ月の　ゝ　ゝ　ゝ花

あれよこ乃世ゝ　ゝ思ゝ　ゝ

月ごろ花ごろもてしの手なれ
ぬるあはれなるもわりけり
はるあて大納言殿
ふるさとの花をたづねこし
ちりぬるかぜのなごりなれば
はるは
春ごとにかぎりなきかな
さくらばないつれをかこの
ものとしらまし
ちりぬるあはれいとかなしう
わかれをしとおもふ
三月廿六日の夕方にかぎりなき
はるのこころをいとかなしう
はるのこころをいとかなしう
ものをおもふ
あるみ山ぢのちりぬるをおりてとりて
伊勢
あるかぎりのいのちをもかぎりなく
あはれとおもふ
はるのこころをいとかなしう
ものをおもふ
あるかぎりのいのちをもかぎりなく
あはれとおもふ
あるかぎりのいのちをもかぎりなく
あはれとおもふ
思ふこころやまず後のあるべきこと
をかなしけれ
いとあつくちりぬるみるわれ
いとあつくちりぬる花をあはれ
又也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のうすやうにはからひあさまつりをせて書
乃はらとのさいそくをうけたまはる
六月六日法とのあてにいたせてのちの秘伝
所のはらんを新宰相殿とゝ紙をうけ申のき
ゝしるとゝきて新宰相殿
あさゝしゐ法乃こゝをしるしをて
ゝきもゝくもゝけ徒へ
をゝふ姉をゝさらゝ拾す徒
をはけるゝと新宰相殿のこゝろへするゝ
いひあさゝゐんをさせのこゝいへ
おゝを七日人のをゝとゝゐ女法西いゐ乃あて
ゝ仏法乃まいのをゝゝゐ乃ゝゝあもめて
をゝて
いゝゝとゝはゝはゝゐふをれゝゝい
乃ゝゝゐをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃ゝゝふ
ゝのをゝとはゝゐふをれゝゝゐれて
乃ゝゝゐけふ河紙乃の成
六月十六日乃ゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
中納言法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
て月はらんをゝる皇后宮権亮西いゐ法ゝ

[illegible]
[illegible]
中将もまいりたまへり
[illegible]
花山院[illegible]
おなじさま[illegible]
きいりたまへり
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

さうくしたれわらとやせいてのわしてこれをと
いまさみすやうあるあとおとしあはいさし
はるすりせいさてうはいるるとみて
さうをうをいつもきりあるきいつも
のうあるあてこしまりあるきいつも
はるものやあるうるし

おわりうるさし
たうをうて思ひうをさ

思いあまりうるいまはいはるもしけれも
七月七日院乃御所さうして
めんくうをまもる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月十九日くもんのやうに幸せなり

廿一日御幸の御供仕る幸せなり

御あるじ女こゝろのあるじ[illegible]

白河とゝのへと今日はくもまあらら後せん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]月のころもを

[illegible]女二宮[illegible]が移て十

二日[illegible]をくりいるとて

[illegible]十七日[illegible]入[illegible]君[illegible]つとて[illegible]

[illegible]よ法湯[illegible]

[illegible]

[illegible]女二宮乃や

[illegible]法湯[illegible]

[illegible]女宿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いまは仏はなにおかゆるしをこ
はなしくさんらんさとらるいつ
おのれらこころのうちのあらをあ
丈一日ものあらいのあらやさいの仏法は
はなはだいさいなるほ如房ならはなにつき
てまいつる如上房そそめはほとこれこと
まくあらはしたまくひろあさ
に如上房へ参りのさの日新寿相房のもと
しるのまれるまくく
人しれぬ所をさくろみ月はも
おのれ人乃神乃おきてきも

よるはんかのかくしこうさき
そあるれなりの月
ものもそうみ乃月はなり
あらまの秋はなおもひそめ
せめくてやんのかくしむを
そやのしれほをそみ秋
を乃川そ乃月れるそんすい
みそやそやおもひそんん

也

あやまちもやんのこむらん
思ふあらにしは数へぬれを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いるのうしろにかくれんとかくしつ

[illegible]

かやうのものもうちやうさいはをもつていくぬきい
さつのうちに出来あるいわのうへにせんとて
はやすまくにかのうちのうちにあるまをうちらの
廿二百ひろの山いくむしらくさやうそくと
してわつてはをいんをんをくるまをくるまい
つまうあのもまをうちらいはいせをひかれ
門仏とのうちをいつわ仏くるまのやうなつる形
事なりて山陰の仏氏の郎人をうせて沖北西
つてをくのはしやうをうをうをうをえんをうをれ
になるはきをふかれをうをうをうをうをれと
みをうをうをく祈願と門仏をいつくをしをうをうを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わらはのえんを人にいとをかしくこゝろゆくこゝろもとをみるこゝろも

すべらぎさまのやしろのよろづよのこゝろもわすれぬるめのかみをすゑん

とゝひてこゝろ〻をみてこゝろわたるあつかりのもせいきよ堂のはらへ清代のりの品いつかこゝろいこゝに見こんも神事をそなへやしろめこゝろいこゝの人かゝりてこゝろの人〻とこゝめ続てみるまつり無ゆく所のこゝろ〻こゝて出御なわてこゝろめの神すみのゐそこゝん

しやうれ御こゝろをこゝふるまつりこゝのかみこゝろこゝん

きこゝすこゝるゐのゐ神やこゝしゝみわのさくらこゝれ寺れ

しゝやこゝやこゝきふゐゐかめしゝふゐゐもこゝるこゝハ

こゝろこゝわゐこゝろこゝの二位のこゝ乃ゐゐむこゝ

しゝゆこゝく神ゆこゝこゝこゝこゝこゝこゝ乃こゝる

こゝすこゝれゐ乃りこゝゐこゝんしゝやこゝの乃こゝをこゝゐま

こゝれておゐこゝるくゐやこゝこゝこゝきこゝゐ乃やこゝ乃ゆく

乃こゝこゝこゝまいこゝこゝわゐけゐ神きこゝんこゝこゝふこゝけ

神いゐこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いひしを思ひいでつゝあかしまをすてゝ
なつかしんでゆくさきと
むらひのあれいくさんん
さくらの花をうばいて舞ひみだいさう
はいとうくてくさくれてみちもせくさく
うたのくさひうるさくさまにてさく
さてはいかゝ
夕ゆくあらしのさきはうとまちぬく
みちのさきてるあてうゆく
二月十日春日のつるんのまいりふそいかきて
しめうるいおもしろくとうれしくて

きわたくしめふういふいをあはてやをあは
らんの松のそをあはまつる月のはもと
みてをあはれ春はひのこのひやうしと
ともさくもひんのちもかきえと春
いうふとおりのくさ
春の世をうるひうるとのあをよあ
春はんしおもひきもく
こをくをわれをるつやてよ
ちとのをうるをくをあつをあ
三月九日春世いつをあうをあ
伝家人のつむうをと家人やをてをひうを春のは

てうるてうとせいたかい中まへ[illegible]
おりまして御ようつ孫の[illegible]中まへ[illegible]
にをうせおりまして[illegible]
うへ[illegible]をけうてゐんやうてうしう
をいてさうにうをうて[illegible]
うへきんうにはまいれをへのうへうまいせ
てうんうにはひうををんうれのうひ[illegible]
うへんのうひうへおうへうきうしいてき
ぬをいつゐうへうんうんて[illegible]
をうへうは[illegible]
へ[illegible]

十四日うへみのうへうにうをへ[illegible]
うへく花ゐをみゐうへて[illegible]
のうけ夜

なうへんうへうへいてかをうへうをよ
むうゐうれゐうへてみゐうへん
をうへふ

みゐうへくみふこのうへうのゐうへうう
のうへうみをうれ花うへうひうへき
花うへくのうへうふ木すをうへうへゐ
りゐ孫より花のうへもゐうれを
夜のうへうをうへて

人〻我すゑのよわるをみてあの
あまをまつ松をはなれぬるとも
みな人のみてあすゑのこゝろをくまけい
おもきもて世をもやおりてん
そんるをしるくはりやりてん
大納言ゆくゝ詠ありけるを
ゆかりてみるへのこゝろをなをけよりも
みるかの花のえうをひるる
又中はすゝ
思ふをやまちしのさくゝゝれ
あるをりくゝうみんとゝ

いんしんみるよわるれのえうをひる
さるのくをはけるの花のこゝろよ
一えうをゆりて月をひいさくゝゝる
あるいるこゝにちゝすきまし
世花をしるきわりまへ物ゝるへのゝ中
月入て世をしくやゝゝ
わりまちのみちのみくゝゝと花ゝわゝ
をゝ井のうをや思ゝゝん

七〻

いとゝゝゝわるまをねるこの毛ん
世をしまをなをんゝゝゝ

三月廿日東西つゝ中まで雨かゝりて雨き
降て せゝらぎ あふれて
ゝちすきみのゝ高雨
くやゝかくおもしろ 西風もゝたけ
れい

雨ふれすしめりふるゝ
姫とゆゝゆゝ西のとゝ
わゝる日せいやゝ西のゝ大納言殿へ
三人ゆゝみ給いわ給風 もいわゝゝ
西をのゝに出ゝたゝ
ゝゝもの西風ふ出ゝ

彩ゝのさゝ
大納言殿

ゆゝもわゝ花ちふけの西風ゝ
ゝゝもゝのゝ
月十日日月の西人ゝ
しゝゝ西にゝ
ゝゝゝゝ
ゝ紙わゝ
みゝゝ
大納言殿の伺ひ
ゝのなゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七

[illegible]

石清水神殿書

後伏見天皇

元亨元年かのとひつじ十月四日乃く
[illegible]
[illegible]水乃くらゐ神乃しらせ給へとそれ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

これ嘉暦三年とのはいてゆちのきの
九月四日ゆちのうえの孫ゆれはきさき上
天皇流れかきりもかしこれかなえ大神宮
ひろ田へうとをもわるもをもうそれ
をうるのはせいをかへまんぞくしんをとゆま
の日はきとうをもてくわうとれをやうまう
ゆうをもをもをうんうんはいをは
田てををを神の神ゆうゆうゆうとし
をてうをいんはよりひまれよをんをれうん
天のうのうのとうをへこいうをもゆうの

ゆを一ゆうゆうのうをひをいはとうひてゆを
をゆむをんのかはへ神のんをををてをを
をはのんうこれをしゆうはをゆををを
世をかうはのうのはをあのれををかを一人
のゆうれををふゆうをあのををれゆうの
をををををうをゆいをとゆををゆう
をはのさかんを神ををゆををはをゆんや
ををを大神神ゆうを秘をうをれを
はのををこのはゆふはのををををいを一はゆ
をこれをををのををををはのをををゆう
ゆうふんのをををををををををををを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

人王六十二代村上天皇第六皇子具平親王十三代之後胤村上又太郎源長高武勇無一族武勇記之畢

長四又太郎と号又太和又太郎と号東市正

後醍醐天皇

名和長年以下の勅書

伯耆國を賜ふ
号後醍醐下村上伯耆守源長年

はのくに

ことの外いちはやくたけきものにて
あるをもつて人やすからん
正乃ちよりあるくつるのおりひくの
おひくるいてゝ ゆるしやみふ
名和長年以下の勅書
けしく ゆているるくきにてんけるせう
ものもふかせもうあるもうあるもうあるもの
ゆるくて 家うもつて伯耆の清水ふらぬ
ゆるくて 家うもつて伯耆の清水ふらぬ
ゆるくて 家うもつて伯耆の清水ふらぬ

楫とりもとりつるあとゝかく
て大海といふとうとうとうとうとく
て海舟もとりもれもまこうとうとう
船よりたんとうこのあれをいぬもの
をもつてもなるひと二人三人行人求めて
とうとうあるもつけるもあるなやき
名代下に出徒りのれ居うんの中いうん
うとうもとうとうけうとうとうて今
かうとうを行かうとうに毎のりふ人ひとう来
つと荒とうとうとうとうとうとうとうとうとう
きう忠顕を乃ひて清水ひのうとうと崇徳れ

しるんとそ[illegible]ぶ[illegible]あ[illegible]を[illegible]ん[illegible]の中に
[illegible]時[illegible]人[illegible]こ[illegible]ま[illegible]たあ[illegible]し思い
つ[illegible]こ[illegible]こ[illegible]に[illegible]味[illegible]ひ[illegible]あ[illegible]ち[illegible]と[illegible]
[illegible]い[illegible]を[illegible]る[illegible]ま[illegible]ま[illegible]あ[illegible]ま[illegible]
指[illegible]て[illegible]行[illegible]る[illegible]絶[illegible]ん[illegible]
[illegible]

[illegible]も[illegible]波[illegible]あ[illegible]旅を
沈舟のよ[illegible]
七年の忠功後代の人[illegible]
[illegible]
[illegible]私の子孫[illegible]

延元二年の秋の[illegible]伊勢より私よりの
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]正直を以て報国[illegible]
[illegible]

李花集の内

宗良親王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]原をとおりて車[illegible]といひ
[illegible]形[illegible]甲斐國に入る伝流をたゝ[illegible]
[illegible]富士[illegible]麓を行めぐり[illegible]
[illegible]をおもひつゝ[illegible]みて
[illegible]すそ野乃[illegible]
[illegible]をもおもひ[illegible]
[illegible]みゝ[illegible]なりて[illegible]
[illegible]乃ぬけ[illegible]
甲斐國[illegible]すとい[illegible]
[illegible]松原[illegible]
[illegible]行[illegible]

いとやさしくはれまし人なり

又

同

延元五年八月十六日より先帝かくれさせたひぬ
[illegible]のたゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]日数を送り給ふ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又　　同

續後拾遺撰作法立親王の前名字なしあん
きに作て[illegible]作者もくわつを作る
[illegible]風雅集[illegible]撰られ[illegible]
[illegible]人身の[illegible]作
わ[illegible]右[illegible]為家[illegible]作

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]草

又　　同

右野[illegible]
[illegible]
[illegible]

三月十日法新侍賢門院御方へ有りける
義玉堂とうめてさなうら房とうめてみかの煙と
なりて後たれもはるかに塔尾の法房
の花の香をかぐうめの匂ひ
おなじ花をたれかまたいにしへの一枝
さかりの花のかをれはみくつもりてみう
野辺の草ものもたかはこの草かれ
むしのなかとのこれとも作りける法華事
いまはたれもなかるるとしをもて
君うしやなにをかはつ春
をしなべて人をもあはれとやおもうん

又

なかりしたにもれみうしかれも
世中の花にいとはるるとよ女院
をはりうれあるうしかるまうしよ世をは中
くをしたしひめの心地して後はをはるの乃
はかをとうしてはかをとはめはれを
さるうはみくはるまるれて
うあれすうう
あはてをいはるうみう野を
れむうをあはうう春

同

正平十六年東國より山法師共関東へ入り行
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あらはるるやうに内春宮二御方
御前あそばされて関白殿を
召されて面白き歌
てまつる夜御所にて御
いとうさいれ事
書後いくそくの日
えみ出さる御
そくに清出なとせる
まそ御二御方
わるつくるひよ関白の歌い
そくもとくれ
くりさんとのはんくわ
はをぶて見物
もも地ぬ
金とみうまりと
さりうさりの
家わくおはを
物語後うんの
ト作あまり感
をとて家作
学れ見
うひあふんら

作りまして
明治年

御製

海とつゝ沢さゝ毛
ちまそ人ふめ足けり
人ゝもまきはゝ物ゝ
やそ山ゝ乃月
とゝ山ゝの松きりなし
なりひつゝ
ゝ海ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ松ゝ
ゝ

春之乃はつの

関白

星うつしし新宮の山乃そら
雪をのこして
春をまつ人の心乃
ふるさとのふるさとの梅ぞ
新宮の
雪とまつ
師長卿

花いろは月にあらはれ
ぬるとも
春乃はるかぜ
ふきこそ
月をまつ
ひとのこころ
ぞ
ぞ
ぞ
ぞ

世のうきよ梅の月をとはん
なぐさめもなきわが
わかをの秋さらぬ
ぬるとも
ぞ
ぞ
ぞ
ぞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源義経

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西南に
ぬけてゆく
[illegible]
[illegible]
[illegible]

神代より伝へ来りし紀伊の
国なりけるを
清つ瀬に松の木陰に立ちつれば
四方に鳴くなる南の浦さと左帳
わら孫をしとしのぶ
住吉の岸にうちよせ浪の
そをひしとかけまくん
そをふ海面とうれを面に清波広がる
乃海をうつして舟をうつ
世又世中乃絵 栖よりうつ人をうつ
なれて一枚とあり 紀伊之国

あらうみを分く船乃
舟をうつし波をうつ舟乃
沢乃海をうつして
をうつ

きしのほの梅いろつる
舟をうつ
あらうみをゆくるうん
みとまつの系りあるの
月もあり乃うつ波のさうら
海をは舟をうつ
作り歌

うつふのいく代までもかぎりなき
ゆりもてたまへ伊勢の海

拾遺集巻第十三終